

新任職員の紹介



氏 名 横田 浩美
産婦人科（部長）

コメント

7月に着任しました。幅広い年齢層の女性たちが笑顔になれるような診療を目指します。よろしくお願い致します。



氏 名 前田 哲生
内科（部長）

コメント

7月に赴任しました。皆さまによりよい医療を提供できるようにがんばりたいと思います。宜しくお願いします。



新病院移転に伴う診療の制限について

市立吹田市民病院は平成30年12月1日に現在の吹田市片山町からJR岸辺駅前にできる北大阪健康医療都市(愛称:健都)へ移転をします。それに伴い、移転前後の期間は下記のとおり診療を制限させていただきます。皆さまにはご不便、ご迷惑をおかけしますが、ご理解賜りますようお願いいたします。

	11/27 (火)	11/28 (水)	11/29 (木)	11/30 (金)	12/1 (土)	12/2 (日)	12/3 (月)	12/4 (火)	
外 来 (初再診)	○	×	×	×	×	×	×		外来開始
外 来 (予約)	○	○	○	×	×	×	×		外来開始
救急外来	○	朝8:30まで	×	×	×	×	×		開 始

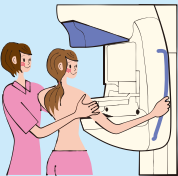
移 転

市民公開講座を開催しました

9月1日(土)午後2時より岸部市民センターにて市民公開講座を開催しました。

今回のテーマは「吹田市民病院の外科一乳がんと腹腔鏡手術」でした。当院の放射線技師が「こわくない!乳腺マンモグラフィー」という演題でお話をした後、当院外科医師が乳がんの基礎的な知識から予防、治療についてお話をしました。当日、会場には乳がんの自己検診をする際、イメージしやすいしこりを実際に体験するコーナーを設けました。

足元が悪い日にもかかわらず59名の市民の方に参加いただきました。



車椅子の寄附を受けました



8月6日(月)大阪府トラック協会河北支部 西三島輸送協議会さまから車椅子4台の寄附を受けました。受領式が行われ、当院の徳田理事長より感謝状の贈呈を行いました。

ご寄附いただいた車椅子は、病棟と内視鏡センターに配置し、活用させていただきます。



平素より市立吹田市民病院だよりをご愛読いただきありがとうございます。ご意見がございましたら市立吹田市民病院までご連絡ください。

この冊子は2000部作成。一部当たり33円です。

●編集・発行 市立吹田市民病院 広報委員会

吹田市民病院 だより No.68

〒564-0082 吹田市片山町2丁目13-20
TEL(06)6387-3311
FAX(06)6380-5825
ホームページ
<http://www.city.suita.osaka.jp/hospital>
メールアドレス
shomu@mhp.suita.osaka.jp

新しい市立吹田市民病院では 回復期リハビリテーションを はじめます



病院移転日:
平成30年12月1日(土)

病院移転日:
平成30年12月1日(土)

急性期

病気やケガの症状が現れ、身体的、精神的な負担が大きく、迅速な対応が必要な時期



回復期

病気やケガによる症状が落ち着き、からだの回復を図る時期



市立吹田市民病院は平成30年12月1日に移転します。新病院ではリハビリテーションの充実を基本方針の一つとしており、回復期リハビリテーションを開始します。

回復期リハビリテーションとは、急性期の治療が終了した後に、身体的・社会的サポートが必要な患者さまに、専門職がチームを組んで、その人らしい生き生きとした生活への復帰を目的としたリハビリテーションを行います。

市立吹田市民病院 回復期リハビリテーションの特徴

- ◆ 約1000㎡の広さを有するリハビリテーション室
十分な治療スペースを確保しており、快適なリハビリテーション環境を提供します。
- ◆ 急性期病院なので、各専門診療科と密に連携
各診療科の専門医がサポートしており、安心安全なリハビリテーション環境を提供します。
- ◆ 透析治療が必要な患者さまへの対応が可能
合併症のリスクを有する患者さまにも、厳重な全身管理の下、安全なリハビリテーションを提供します。
- ◆ 立地条件の良さ
JR京都線岸辺駅から連絡通路が直結しており、患者さまのご家族の来院も便利です。病院周辺には商業施設や利便施設も充実しています。



最新の機器を導入し、
最適なリハビリテーション環境を提供

新病院の4階に、1000㎡の広大なリハビリテーション室と400㎡のリハビリガーデン（屋外練習場）、そして同フロアに回復期病室を備え、集中的なリハビリテーションの実施を可能とします。

体重免荷装置

一人で歩行が困難な方や、体力が低下したかたでも、安全で効果的な全身運動を行うことができます。



有酸素トレーニング機器

持久力の向上、高血圧や糖尿病などの生活習慣病などの予防をはかります。



リハビリガーデン

リハビリテーション室に隣接する、広さ600㎡を有する屋外練習場です。緑いっぱいの環境と屋外の新鮮な空気の下、実際の屋外活動を想定し、坂道・でこぼこ道などの応用歩行練習を行うことができます。



ADL室

ADLは日常生活動作 (Activities of Daily Living) の意味です。キッチン、和室、浴室など日常生活に即した環境を備えてた部屋があります。退院後、自宅に帰っても、自立した生活をするための具体的な練習ができます。



吹田市民病院リハビリチームの紹介

医師



リハビリテーション科部長
江頭 誠

回復期リハビリテーション病棟は患者さまが、元の生活を取り戻す手助けをする役割を担うため、他の病棟と異なり、訓練の場という特徴を持っています。例えば食事をすることも訓練と考えます。多職種がチーム一丸となって、患者さまそれぞれのリハ目標が達成できるように尽力します。ご期待ください。

看護師

日々の入院生活をリハビリの一環として考え、患者さまが日常生活をご自身で行えるような援助をいたします。患者さまに寄り添い、ご家族とともにサポートしてまいります。

多職種のチームで



医療社会福祉士

入院した患者さまがスムーズに自宅などに退院できるよう、お手伝いをします。介護保険、社会制度を活用できるように支援します。

患者さまに合わせた支援



言語聴覚士(ST)

私たちは、言語や、食べる、飲み込むなどの摂食・嚥下機能の問題、また高次脳機能障害を抱える患者さまへ、口腔ケアや接食練習をはじめとした、さまざまな指導・治療を行います。



理学療法士(PT)

私たちは、起立や歩行等の基本動作、坂道歩行や階段昇降の応用動作、今後、生活を送るために必要な動作を再獲得するため、体力、筋力を向上させ、補助具を利用した動作指導を行います。



作業療法士(OT)

私たちは、食事やトイレ、着替え、入浴などの身の回りのこと、家事、仕事、趣味など退院後の生活にかかわる練習を行います。リハビリガーデンでは、散歩や園芸などの屋外活動ができます。

